

と も い き 共 生

2019年7月

Vol.06

社会福祉法人
札幌慈啓会 広報誌

TOMOIKI

すべてのいのちに寄り添い、共に生き続ける

特集

生活の質の向上を目指して

2P

- ・ 法人理念の改定について 4P
- ・ 藻岩山登山者血圧測定サービス 4P
- ・ 平成30年度決算報告、苦情報告 5P
- ・ 支えてくれる人と組織 6P
- ・ お知らせ 8P



生活の質の 向上を目指して

これまで社会福祉法人は福祉サービス提供の主体としてその中核を担ってきました。近頃は社会情勢や経済状況などの著しい環境変化にさらされており、利用者が選ばれるサービスを常に提供していくために努力をすることは使命であると言えます。

福祉サービスは、人から人へと提供される対人サービスであり、その成果は形に残らないものが多いです。そのため、提供される福祉サービスの質の確保・向上のため、提供体制の整備、品質管理などの仕組みが必要になります。これがうまく働くことで利用者様へのサービスの質の向上になり、ひいては生活の質の向上にもつながると言えます。

今回は当法人の特別養護老人ホームと老人保健施設で実践されている利用者様の「生活の質の向上を目指した取組」についてご紹介いたします。

慈啓会特別養護老人ホーム

慈啓会特別養護老人ホームにおける取組

リハビリテーション（以下リハビリ）の対象者は入所・ショートステイ・デイサービスの事業に及びますが、入所者様には以前より個々の身体状況に応じて生活機能の維持・向上目的にプログラムを作成・実施しております。

個別機能訓練の拡充

個別機能訓練を昨年よりデイサービス利用者様に向けて、さらに今年度にはスタッフを1名増員し、短期入所利用者様にも実施しています。その内容は運動、マッサージ、物理療法だけでなく、持てる力を活かしながら在宅生活が継続できるように、福祉用具の選定、住宅改修の助言、生活指導なども行っています。また、関係職種とのカンファレンスに参加し、利用者様の生活改善につながる提案や意見交換も行っています。

最近では、施設の利用者様に加えて、地域の高齢者の方々を対象に運動教室や健康講話会の開催も協力しています。

今後モリハビリを通して、利用者様の生活の質の向上に貢献していきたいと思っております。



リハビリテーション



健康講話会

特別養護老人ホーム札幌市稲寿園

特別養護老人ホーム札幌市稲寿園の取組

当園は、個々の入所者様の生活に快適な環境を整え、看護・介護の技術を高め、良質なケアを提供するとともに、他の入居者様や職員との良好な人間関係の構築の中で、日常生活への満足感が得られるよう努めています。

「ことぶきカフェ」の誕生

アンケート等により定期的に入所者様のご意見・ご要望を伺い、食事や行事等、特にご要望の多い内容を把握し、実現が可能であれば実際に取り入れ対応するよう心がけています。

食事の飲み込みに支障が出てきた方でも、美味しい物が口に出来る行事への関心が強いことから、平成29年度より「ことぶきカフェ」という愛称で園内カフェを定期開催しています。アイスクリームやパフェなど、誰もが口にしやすい季節感を感じるメニューを楽しみ、他の利用者様とも交流できる機会となっています。

入居生活は単調になりやすいため、今後も「生きがい感」が感じられるよう工夫していきたいと思えます。



Cafe



Cafe

慈啓会老人保健施設

慈啓会老人保健施設における取組

老健は医療と介護の機能を併せ持ち、住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るように、在宅復帰・在宅療養支援をする施設です。

入所して生活機能の向上のためリハビリテーション（以下リハビリ）を行ったリ、ショートステイや通所リハビリの利用することで、在宅生活ができるように支援しています。いずれも多職種で個々の身体状況、家屋状況、介護環境に合わせた計画を作成し協働でケアを行っています。

チームケアの実践

多職種によるカンファレンスにて様々な角度から意見交換し、ケアプラン、リハビリ計画、栄養ケア計画に反映することは円滑な支援につながります。特に今年度より相談員を1名増員し、在宅復帰・在宅療養支援の機能を強化しました。入退所前後に相談員、リハビリスタッフ、看護・介護職員が在宅を訪問し情報収集することで、個々の生活状況にあった計画を作成することが出来ます。一方で、入所前の生活へ復帰が困難な場合は、「終の棲家」探しの支援も行い、心豊かな老後生活につながるよう取り組んでいます。



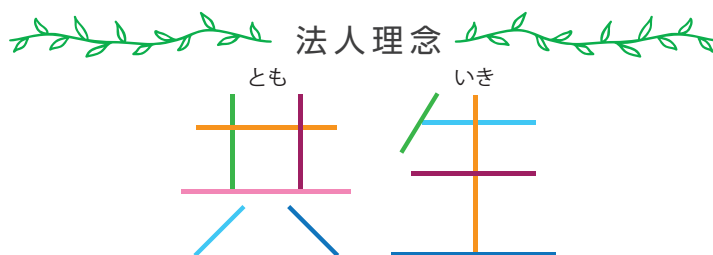
退所前カンファレンス



言語聴覚士による訓練

法人理念の改定について

平成 31 年 4 月 1 日、法人の理念を改定致しました。
これからの時代や地域のニーズに沿った法人運営をしていくために、
法人の姿勢が皆様により伝わりやすい表現へ改めることにしました。
今回の改定にあたり「共生」は法人としての成り立ちから現在の活動、
今後の進むべきあり方を創造させる大切な理念であると再認識することができました。
「共生」の意味するものは、人・個人・地域社会全体との横のつながりだけでなく、
過去から現在、そして未来へつながっている
“いのち”という縦のつながりも大切にすることであり、
より伝わりやすくするために「すべてのいのちに寄り添い、共に生き続ける」と
表現することとしました。
今後は新しい理念のもと、社会の動向や取り巻く環境変化に対応しつつ、
社会福祉法人としての使命を果たしてまいります。



すべてのいのちに寄り添い、共に生き続ける

- 誰もが“人”として尊重されること
- 誰もが“個人”として保証されること
- 誰もが“地域社会の一員”であること

「山登りの前に血圧測っていきませんか？」
「そうだね。測ってみるか。今日は暑すぎないから歩きやすいよ。」
藻岩山登山口に続く坂道に臨時で設置された血圧測定所では、登山客と看護師とのなげない会話が交わされます。
二〇一〇年に慈啓会病院外来の看護師による発案で始まった血圧測定サービスは、今年で一〇年目を迎えました。元々は「看護の日」の看護の心、助け合いの心が育むきっかけとなる活動として地域の方にむけて始めた事でした。そして慈啓会病院が藻岩山登山口横に位置している事から毎年「もいわ山の日」の前後で血圧測定サービスを九時半～一四時の時間帯で実施しています。
登山される方だけあって皆さんお元気で、中には八〇代の方まで訪れます。この日は少し肌寒いものの天気にも恵まれ六〇名ほどの方が測定されていきました。
測定を通して登山客とも交流ができ、慈啓会病院を身近に感じて頂くいい機会となっています。

※藻岩山の標高五三二mにちなんで毎年五月三十一日を「もいわ山の日」として、この前後の数日には藻岩山観光運営委員会が企画したイベントが催されています。



平成30年度 法人決算報告

●資金収支計算書 (自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入			
	介護保険事業収入	2,056,387,000	1,994,820,281	61,566,719
	老人福祉事業収入	664,608,000	604,899,722	59,708,278
	保育事業収入	120,028,000	120,144,570	△116,570
	医療事業収入	1,825,012,000	1,796,417,744	28,594,256
	借入金利息補助金収入	971,000	970,731	269
	経常経費寄附金収入	4,682,000	4,601,180	80,820
	受取利息配当金収入	169,000	170,490	△1,490
	その他の収入	20,224,000	17,216,407	3,007,593
	事業活動収入計(1)	4,692,081,000	4,539,241,125	152,839,875
	支出			
	人件費支出	2,951,863,000	2,880,257,815	71,605,185
	事業費支出	719,652,000	692,589,760	27,062,240
	事務費支出	736,705,000	645,724,845	90,980,155
	利用者負担軽減額	48,923,000	46,274,619	2,648,381
支払利息支出	21,970,000	21,990,805	△20,805	
その他の支出	73,000	71,162	1,838	
事業活動支出計(2)	4,479,186,000	4,286,909,006	192,276,994	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	212,895,000	252,332,119	△39,437,119	
施設整備等による収支	収入			
	施設整備等補助金収入	1,030,000	1,030,000	0
	固定資産売却収入	950,000	950,400	△400
	施設整備等収入計(4)	1,980,000	1,980,400	△400
	支出			
	設備資金借入金元金償還支出	182,655,000	182,655,000	0
固定資産取得支出	16,625,000	16,493,969	131,031	
ファイナンス・リース債務の返済支出	23,305,000	23,278,116	26,884	
施設整備等支出計(5)	222,585,000	222,427,085	157,915	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△220,605,000	△220,446,685	△158,315	
その他の活動による収支	収入			
	長期貸付金回収収入	90,000	120,000	△30,000
	積立資産取崩収入	3,380,000	3,400,131	△20,131
	その他の活動収入計(7)	3,470,000	3,520,131	△50,131
	支出			
	長期運営資金借入金元金償還支出	71,400,000	71,400,000	0
	長期貸付金支出	1,200,000	1,200,000	0
	積立資産支出	16,000,000	19,000,000	△3,000,000
	その他の活動による支出	113,000	0	113,000
	法人税、住民税及び事業税支出	0	300,600	△300,600
その他の活動支出計(8)	88,713,000	91,900,600	△3,187,600	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△85,243,000	△88,380,469	3,137,469	
予備費支出(10)	0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△92,953,000	△56,495,035	△36,457,965	
前期末支払資金残高(12)	784,085,656	784,085,656	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)	691,132,656	727,590,621	△36,457,965	

●事業活動計算書 (自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	1,994,820,281	1,978,453,583	16,366,698
	老人福祉事業収益	604,899,722	599,600,143	5,299,579
	保育事業収益	120,144,570	124,374,740	△4,230,170
	医療事業収益	1,796,417,744	1,810,763,168	△14,345,424
	経常経費寄附金収益	4,601,180	5,898,837	△1,297,657
	その他の収益	0	291,200	△291,200
	サービス活動収益計(1)	4,520,883,497	4,519,381,671	1,501,826
	費用			
	人件費	2,865,184,165	2,884,612,038	△19,427,873
	事業費	689,114,938	709,928,484	△20,813,546
	事務費	645,724,845	625,455,939	20,268,906
	利用者負担軽減額	46,274,619	52,674,321	△6,399,702
	減価償却費	250,294,257	251,276,591	△982,334
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△76,459,886	△76,215,508	△244,378
サービス活動費用計(2)	4,420,132,938	4,447,731,865	△27,598,927	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	100,750,559	71,649,806	29,100,753	
サービス活動外増減の部	収益			
	借入金利息補助金収益	970,731	1,262,175	△291,444
	受取利息配当金収益	170,490	191,533	△21,043
	その他のサービス活動外収益	17,216,407	15,781,929	1,434,478
	サービス活動外収益計(4)	18,357,628	17,235,637	1,121,991
	費用			
支払利息	21,990,805	25,194,489	△3,203,684	
その他のサービス活動外費用	71,162	74,250	△3,088	
サービス活動外費用計(5)	22,061,967	25,268,739	△3,206,772	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	△3,704,339	△8,033,102	4,328,763	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	97,046,220	63,616,704	33,429,516	
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	1,030,000	45,571,000	△44,541,000
	固定資産売却益	950,400	0	950,400
	その他の特別収益	0	9,427,687	△9,427,687
	特別収益計(8)	1,980,400	54,998,687	△53,018,287
	費用			
	固定資産売却損・処分損	9,557	1	9,556
	国庫補助金等特別積立金積立額	1,030,000	45,571,000	△44,541,000
	特別費用計(9)	1,039,557	45,571,001	△44,531,444
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	940,843	9,427,686	△8,486,843
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	97,987,063	73,044,390	24,942,673	
法人税、住民税及び事業税(12)	300,600	292,200	8,400	
法人税等調整額(13)	0	0	0	
当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)	97,686,463	72,752,190	24,934,273	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(15)	1,038,971,679	967,800,932	71,170,747
	当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)	1,136,658,142	1,040,553,122	96,105,020
	基本金取崩額(17)	0	0	0
	その他の積立金取崩額(18)	3,400,131	3,418,557	△18,426
	その他の積立金積立額(19)	19,000,000	5,000,000	14,000,000
	次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)	1,121,058,273	1,038,971,679	82,086,594

(単位:円)

●貸借対照表 平成31年3月31日

	資産の部			負債の部			
	当年度末	前年度末	増減	当年度末	前年度末	増減	
流動資産	1,003,022,139	1,016,891,916	△13,869,777	流動負債	706,770,044	648,539,133	58,230,911
現金預金	355,630,830	348,615,529	7,015,301	短期運営資金借入金	20,000,000	0	20,000,000
有価証券	0	10,000,000	△10,000,000	事業未払金	191,677,180	189,413,671	2,263,509
事業未収金	621,306,176	633,646,630	△12,340,454	その他の未払金	18,885,877	2,266,175	16,619,702
未収金	449,650	5,907,107	△5,457,457	1年以内返済予定設備資金借入金	182,524,000	182,655,000	△131,000
未収補助金	10,243,869	8,528,645	1,715,224	1年以内返済予定長期運営資金借入金	77,350,000	71,400,000	5,950,000
未収収益	690,968	1,694,947	△1,003,979	1年以内返済予定リース債務	24,852,820	20,957,844	3,896,976
医薬品	4,924,429	1,684,669	3,239,760	未払法人税等	300,600	292,200	8,400
診療・療養費等材料	1,688,865	1,453,803	235,062	未払消費税等	2,396,400	168,900	2,227,500
立替金	2,454,432	1,645,104	809,328	預り金	77,114	97,811	△830,697
前払金	0	5,400	△5,400	職員預り金	35,272,006	36,192,065	△920,059
前払費用	5,632,920	3,684,682	1,948,238	前受収益	18,000	18,000	0
仮払金	0	25,400	△25,400	仮受収益	191,047	408,966	△217,919
				賞与引当金	153,223,000	143,858,501	9,364,499
固定資産	4,253,323,579	4,430,778,569	△177,454,990	固定負債	1,444,923,412	1,716,735,667	△271,812,255
基本財産	3,436,934,445	3,607,699,302	△170,764,857	設備資金借入金	760,056,000	942,580,000	△182,524,000
土地	154,300,000	154,300,000	0	長期運営資金借入金	215,590,000	292,940,000	△77,350,000
建物	3,282,634,445	3,453,399,302	△170,764,857	リース債務	39,877,557	43,185,513	△3,307,956
その他の固定資産	816,389,134	823,079,267	△6,690,133	退職給付引当金	429,399,855	438,030,154	△8,630,299
土地	20,100,000	20,100,000	0	負債の部合計	2,151,693,456	2,365,274,800	△213,581,344
建物	173,238,331	209,858,986	△36,620,655				
構築物	16,754,174	20,264,294	△3,510,120	純資産の部			
機械及び装置	4,335,740	4,149,995	185,745	基本金	604,016,644	604,016,644	0
車輛運搬具	1,428,741	94,600	1,334,141	国庫補助金等特別積立金	1,237,876,863	1,313,306,749	△75,429,886
器具及び備品	57,801,081	59,191,097	△1,390,016	その他の積立金	141,700,482	126,100,613	15,599,869
有形リース資産	60,632,401	63,158,965	△2,526,564	施設整備等積立金	95,397,231	76,397,231	19,000,000
権利	106,440	106,440	0	人件費積立金	21,784,138	21,784,138	0
ソフトウェア	2,705,402	2,383,827	321,575	その他積立金	24,519,113	27,919,244	△3,400,131
無形リース資産	3,688,632	673,920	3,014,712	次期繰越活動増減差額	1,121,058,273	1,038,971,679	82,086,594
投資有価証券	42,000	42,000	0	(うち当期活動増減差額)	(97,686,463)	(72,752,190)	(24,934,273)
長期貸付金	5,270,000	4,190,000	1,080,000				
退職給付引当資産	328,122,320	312,314,470	15,807,850	純資産の部合計	3,104,652,262	3,082,395,685	22,256,577
差入保証金	420,000	420,000	0	負債及び純資産の部合計	5,256,345,718	5,447,670,485	△191,324,767
施設整備等積立資産	95,397,231	76,397,231	19,000,000				
人件費積立資産	21,784,138	21,784,138	0				
その他積立資産	24,519,113	27,919,244	△3,400,131				
その他の固定資産	43,390	30,060	13,330				
資産の部合計	5,256,345,718	5,447,670,485	△191,324,767				

苦情受付の公表について

平成30年4月～平成31年3月までにいただきました苦情等は以下のとおりです。
 ○受付件数:11件(上期のみ)
 ○申出内容(重複あり):職員の言動に関する苦情(4件) 食事、環境に関する苦情(3件) 説明、情報提供について(2件) その他(2件)
 ○対応:申出内容について、速やかに状況の確認を行い不快な思いに対する謝罪と改善に取り組んでおります。
 ○第三者委員会:申出内容について第三者委員会に苦情内容及び苦情解決の経過・結果を報告し、助言等を頂きその後の業務に反映しております。
 貴重なご意見ありがとうございました。

参考事例:施設のスリッパの衛生管理について。
 意見等:スリッパが不潔に感じるというご意見が匿名で投書箱に寄せられました。
 対応内容:スリッパの管理については週3回定期的に消毒液をスプレーし、内部と外側前部分の拭き上げをして対応しておりましたが、説明が不十分で不快な思いをさせてしまった事を掲示板にて謝罪しました。今後は職員それぞれが清掃を徹底する意識をもち、快適な園内環境の維持に努めていくよう周知徹底しました。

支えて頂いている 人と組織

地域の施設



幌西ほうおん

施設長 伊藤麻子様

当事業所は知的障がい者の通所施設として平成29年4月に開設いたしました。事業所のあるこの土地は、大正7年に開設した札幌報恩学園発祥の地でもあります。実はこの頃より慈啓会さんとはご縁がありました。そんな繋がりもあり昨年度は、慈啓会さん主催のお祭りに参加したり、イベント開催場所として当事業所併設のカフェを利用していただく等、交流の機会をいただき大変感謝しております。これからも『出会い』と『つながり』を大切に、慈啓会さんをはじめ、地域の方々との交流を深めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



ボランティア



北海道民放クラブ

前会長 和田 朗様

毎月第3水曜日の午後、4階の食堂で「むかし、むかし、コタンに住むおじいさんが…」などと紙芝居が始まります。もう20年以上も続いている北海道民放クラブ社会活動部の紙芝居です。民放クラブはラジオ・テレビの退職者の親睦の為のクラブですが、現役時代に培った技能を生かして社会貢献を目的に活動しているのが社会活動部会です。平成5年から札幌慈啓会様をはじめ市内各地で公演してきましたが、手作りの紙芝居はオリジナルを含め今では70本近くになりました。私も米寿を迎えメンバーの老齢化も進み残念ながら上演回数を縮小しておりますが、これからもお年寄りの笑顔を楽しみたいと思っております。



ボランティア



北海道ボランティアアドッグの会

前本 智恵美様

私達「北海道ボランティアアドッグの会」は老人ホームや病院を訪問し犬との触れ合いを通じて動物介在活動をしております。犬種は様々で普通の家庭犬ですが適性検査、検体を通った犬達です。

この活動を通して普段無表情の方が笑顔になったりお話したり、時には涙を流されたりと小さな奇跡を目にしている感動する事が多々あります。また、利用者さんや施設の方に「待っているよ、又来てね」と声をかけて頂けるのも私達の励みになり毎回ほっこりとした気持ちになって帰らせていただいております。これからもどうぞよろしくお願致します。



後援会



会長 杉野目 浩様

平成30年度も皆様の多大のご支援を賜りました。諸事ご多端の折、ご厚志まことにありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

後援会は1996年11月20日に発足し、今年で23年目になります。私は会長をお引き受けて今日に至りましたが、この度退任させて頂きます。23年間、寛容にご支援を頂戴し、浄財をお寄せいただいた皆様のご協力を厚くお礼申し上げます。

新会長の横山氏に対しこれまで以上に皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。後援会の発展をお祈り申し上げます。退任のご挨拶とさせていただきます。長い間ありがとうございました。



介護の基礎から応用まで学べる

介護職員初任者研修開講のお知らせ

通信
講座

定員
15名

札幌慈啓会では、介護職のスタート資格ともいえる介護職員初任者研修を今年も開講します。

介護の仕事をしてみたい方はもちろん、家族や身近な人のために介護の知識を身に付けたい方などにおススメの資格です。今年から通信講座の形になり働きながらでも学びやすくなりました。

研修期間 9月5日(木)～11月28日(木)

面接指導 毎週木曜日 8:50～18:05 ※日によって、時間帯が異なります。

研修会場 札幌慈啓会特別養護老人ホーム 札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6-51

受講料 55,000円(税込) *テキスト代含む **募集期間** 8月5日(月)～8月26日(月)

※詳細はホームページにて掲載予定ですので、ご確認ください。



お問合せ先: 電話(011)561-8291

第24回 札幌慈啓会福祉・病院学会開催のお知らせ

新しい時代の幕開け「令和」とともに生きる。

開催日 令和元年11月16日(土) 13:00～17:30

場所 札幌市社会福祉総合センター 4階「大研修室」

この学会は法人職員の日頃の実践・調査・研究した成果を発表する場として2年に1度開催しております。職員による研究発表16題の他、道民カレッジとの連携講座である「公開講座」と「共生(ともいき)助成事業報告」も予定しております。現在チラシ・ポスター等を制作中ですので、郵送・掲示等で皆様に改めてお知らせいたします。(研究・研修センター)



公開講座 緩和ケアについて

慈啓会病院診療部長 多羅澤 功

共生助成事業報告

アンケート調査から見えた
認知症カフェの現状・課題・可能性

星槎道都大学社会福祉学部 社会福祉学科 教授 上原 正希

No.	演題	No.	演題
1	特養従来型プライバシー改修を終えて	9	点滴における脂肪製剤の有用性
2	入居者アンケートを通じて	10	当院における心臓エコーの評価
3	より良い保育環境づくりを目指して	11	地域医療連携室の役割
4	災害に備えた取り組み	12	ターミナル期を迎えられた方々にとって何が大切であるか
5	個人機能訓練取組からその後について	13	地域における自立支援・重度化防止の取り組みについて
6	デイサービスにおけるレクリエーションの意義について	14	地域におけるネットワーク作りについて
7	在宅復帰支援・在宅療養支援加算取得までの流れ	15	住民主体の介護予防活動と通いの場の展開
8	在宅復帰支援	16	札幌市稲寿園の地域における公益的な取組について

編集後記



涼しい話題の一つ。南極にある日本の観測基地は「昭和基地」が有名だが、沿岸部のそこから内陸に約1,000 km入ったところに、1995年設置の「ドームふじ基地」がある。基地の標高は富士山頂よりも高い3,810mで、その下はほとんど氷(氷床)である。南極を覆う氷床はその時代の大気を閉じ込めたタイ

ムカプセルとなる。ドリルで深層部から円柱状に掘り出した「氷床コア」を調べると、地球の歴史が見えてくるという。日本は、2022年に基地周辺で推計約150万年前の氷の採取に挑む。ライバルは欧州各国や中国、豪州であるが、日本チームが世界最古の氷を掘り当てる快挙を祈りたい。(俊)

表紙題字揮毫: 「共生」

長谷川白羊(はせがわはくよう)書。

昭和4年札幌市生まれ。本名・悦(よしつぐ)。法政大学文学部卒。昭和35年山口羊子に師事。平成2年「札幌と書」(札幌市教育委員)に於いて「札幌の書家」百選に選ばれる。平成6年個展開催(於札幌大丸藤井セントラル)

表紙写真: 「慈啓会特別養護老人ホームリハビリ職員」

広報誌「共生」2019年7月 Vol.06

編集発行/社会福祉法人札幌慈啓会

[法人本部] 〒064-0941 札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6番51号
(慈啓会特別養護老人ホーム1F)
TEL011-561-8291 FAX011-561-8298
<https://www.sapporojikeikai.or.jp>

